

## 財布をなくす男子 財布を届ける男子

うちの長男、この半年で財布を三回もなくしました。一度目は小六の終わり。小銭とICO乗車券しか入っていない財布に対して一通りの検索と手続きを、すべて息子と一緒に、あえて大きさにやりました。財布は見つかりませんでしたが、これから中学生になる息子にはいいクスリになつただろうと思つていました。

二度目の紛失は夏休み。この時は落とした場所で見つかって事なきを得ましたが、注意するよう念押し。しかし三度目の紛失が、そのたつた二週間後だからあれます。

友達とバスで映画を見に行き、小一の弟も連れて行つてくれました。そして家に戻るとまたしても「財布がない！」と。財布の中には6か月定期と学生証も入っています。

道端を探しながら交番へ。何度もこんなことをやらせるんだと、小言を言つている間にますます腹が立つてきます。全部自分で説明しなさいよ

と、交番の席には息子だけを座らせ、私は後ろで黙つて立っていました。「えっと……バスに乗つて……要領を得ない息子の話し方に、口を挟みたくないのをぐつと我慢。

「弟がバスで寝ちゃつて、おんぶしたから……その時ポケットから落ちたんだやさしいヤツなんです。おせっかいばかりして、自分のことは気を付けられないんです。しかたないと、私の怒りは静まりかけていました。

が、次の一言で再燃。

「入つていたのは、お年玉の一万円札なんだって？ こんなにも財布をなくすキミがなぜ一万円札を入れていく？ 夏休みでウカれたアホだと。バス会社への問い合わせや定期券の再発行手続き等、本人にすべてさせた翌日、隣町の警察署から連絡が

まだ高校一年生だったことが分かりました。あの朴とつとした声の高一の男の子が、息子からの手紙をどんな風に読んでくれたのかな、という想像が頭の中を巡ります。

「そちらは中一なのね？ うちの息子にもいい経験になりましたよ。こうやって、世の中まわっていくといいでね」というお母様のお言葉。

一回りも二回りも器の大きな親子でいらっしゃいます。息子にチクチクといじわるをしていた自分の小ささも恥ずかしくなりました。なにより息子には、感謝の気持ちを忘れず、財布を届ける側の人間に成長してもらいたいものです。

報奨金はいらぬとのことでしたがこれで済ますわけにもいかず、お礼の品を郵送させていただきました。これからはとにかく無口な方でした。

この息子からわざわざ電話をいたしました。「助かりました。これからは財布を落とさないよう気をつけます」

### すてきな先輩親子

それから数日後、今度はその男性のお母様からわざわざ電話をいたしました。そこで男性というの



文・写真  
小宮華寿子  
出版社編集部員  
を経て、フリー  
ランスの編集者  
に。2男1女の母。著書に『ブラジル  
の手しごと』(メイツ出版)がある。



イラスト  
デザイン  
寺沼麻美  
切り絵作家、時々  
デザイナー。『ゆ  
らゆらゆれる北欧風手作りモビール』(ネコ・パブリッシング)を監修。